

まちのキラリびと



敦賀楽しモルックの会
代表 本間 貴也 さん

一緒にモルック
をしましょう。
楽し〜モルック!!

モルックはだれもが主役になれる スポーツです

モルックとの出会いは、人気お笑い芸人がテレビで紹介していて、日本代表として国際大会に出場したことを知り、実際に競技を体験したことがきっかけで興味を持ちました。

モルックとは、競技名にもなっているモルックという木の棒を投げて、点数が書かれたスキットルという木のピンを倒し、先に合計50点ピットリにした方が勝利となります。

スキットルを倒して点数をとるというシンプルなルールでありながら、団体戦では、50点ピットリを合わすために、チームメンバーとコミュニケーションを図りながら戦略を練る、奥が深いスポーツです。

国内の競技人口は決して多いとはいえず、まだまだ認知されていないスポーツであり、県内で活動しているのは、当会を含めて3団体です。

当会は、敦賀を中心に老人クラブや子ども会などの団体イベントに参加したり、毎月第3日曜日に赤レンガ倉庫で体験会を実施しています。興味のある方はぜひ気軽にお越しください。

モルックは、老若男女問わず、スポーツが苦手な方でも、だれでもできるスポーツです。一度モルックをやってみませんか。



Instagram

公式LINE

▼敦賀楽しモルックの会



▼体験会の様子



まちの宝を発見! つるが歴史遺産



博物館で「敦賀藩物語」という
特別展が開催されます!(8頁参照)

案内人 学芸員 坂東 佳子



▲『敦賀名勝詩』の鞠山の箇所(左下)



版本 敦賀名勝詩

鞠山陣屋を描いた最古の図

江戸時代、中国の瀟湘八景をまねて故郷の美しい風景を選び、絵をつけて名所図会にすることが、各地で盛んに行われていました。今回ご紹介する『敦賀名勝詩』は、貞享5年(1688)に作成され、元禄5年(1692)に刊行された、敦賀最古の板行典籍と言われる名所図会のはしりです。

清化堂道碩(せいかどうせき)という人物が、敦賀の名勝十七景をあげ、それぞれの風景を詠んだ漢詩をつけています。序文に、最初に筒飯春望(けしげんはるぼう)を選んだ理由を「天下之宗水土之鎮也」と、氣比神宮が天下の鎮守であるからとし、最後に鞠山晴望(まきやませいぼう)を選んだ理由は「新成之豪華為景致之冠、且明君民相歎之由」と、新成の豪華な風景をみんなで喜んだためとあります。後に「敦賀藩」と呼ばれる「鞠山藩」の陣屋が、現在の鞠山神社がある場所に建築されたのが、貞享4年(1687)(貞享2年説もあり)なので、貞享5年に作成された本誌の「新成之豪華」な景観は、当時の敦賀の人々にとっては「鞠山陣屋」のことであると分かります。そしてさらに、添えてある絵画にチラシとその建物が描かれているのでした。

明治時代の小説家が日本の三(大)陣屋の一つとして「敦賀(鞠山)陣屋」を挙げたことから、「鞠山陣屋」がその文脈で取り上げられる事があるようですが、実は何をもちて敦賀の陣屋を取り上げたのかよく分かっておらず、ある人は現在の敦賀西小学校付近にかつてあった小浜藩の陣屋(御茶屋)の事では?と言う方もいます。

ただ江戸時代中頃の敦賀においては、鞠山陣屋は間違いなく「新成の豪華」な景観に花を添える建物だったのです。

広報担当者のつづき

朝晩寒く感じるようになり、すっかり秋色に染まってきました。最近スーパーやコンビニなどで石焼き芋を見かけることが増えたので、試しに食べてみました。芋の種類や焼き加減の違いはあるものの、ホクホクで中はトロツと甘く、それから芋に夢中になっています。食欲の秋です。(T)

左記のとおりT氏は「食欲の秋」。私のデスクの横で甘いものを食べている姿をよく見かけます。おすそ分けをいただくことも増え、少し下っ腹が出てきたような気がするので、私はこのシーズンを「スポーツの秋」として筋トレを始めました。健康のためにも続けていこうと思います。(M)